



カターレ富山

Be supporters! サポーターになろう! 1/2

「Be supporters!」は、高齢者・認知症の方など普段は周囲に「支えられる人」が「支える人」となるプロジェクト。2020年12月よりカターレ富山×県内福祉施設×サントリーウエルネスが一体で推進している。コロナ禍であらゆるものが分断される中、誰かを“推す”“応援する”ことで施設にワクワクとトキメキが溢れ、誰も予想しなかった数々の「つながり」と「幸せな物語」が生まれた。2021年はJ2復帰に向け県内一丸での応援機運が高まる中、県内福祉施設に延べ1000人、最高齢98歳のサポーターが新たに誕生! 高齢者に起きた変化には医学の専門家も注目している。



活動場所 県内高齢者福祉施設



協働者

企業、住民、行政

協働者名

サントリーウエルネス株式会社、富山県内福祉施設、とやま未来共創チーム(事務局:富山市未来戦略室)



協働者の声 サントリーウエルネス株式会社/吉村 菜佑子 氏

サントリーウエルネスはSocial Well-being(社会の幸福度を上げる)活動としてBe supporters!を推進。これまでにはなかった施設・サポーター・地域のつながりが、カターレ富山を中心に次々と生まれていくのを目の当たりにしてきた。この活動は地域に根付くサッカークラブがあるからこそ。22年はJリーグパートナーとしてさらに広めていきたい。

 ひとりひとりに、ウエルネス。  
 Santory Wellness


活動詳細情報

- 1 [目指せJ2復帰!「Be supporters!\(ビーサポーターズ\)」大作戦!](#)
- 2 [「Beサポーターズ!を今すぐはじめるためのガイドブック」](#)



カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ





カターレ富山

Be supporters! サポーターになろう! 2/2

## Story

初めて話を聞いたのは2020年5月。富山県の高齢化率は全国上位でコンセプトに共感したものの非常に難しい領域だと感じた。富山の高齢者と言えば相撲や野球が人気。サッカーの応援なんてしてくれるのだろうか。でも、不安と同時に個人的にはある種の”使命感”も感じて、私は挑戦することを決めた。私には認知症の曾祖母と老老介護で苦労した祖母がいて、曾祖母を敬遠してしまった経験があったのだ。また、コロナ禍で楽しみが減っているであろう高齢者の新しい生きがいになればと思った。プロジェクトのスタートは、2施設20人。しかし、目の前には信じられない風景が広がった。普段は

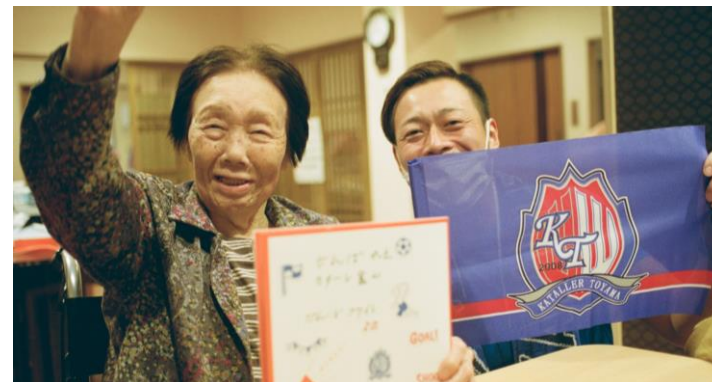


座りっぱなしで机に顔を伏せているという人が手拍子をして応援している。推し選手の応援うちわを作り飛び切りの笑顔で写真に写っている。その方が認知症の状態にあることを私は職員から聞くまでわからなかったくらいだった。さらに「サポーターは負けても選手を支えることだよ」とも利用者が言ったというのだ。

回を重ねると明らかな変化も見えてくる。食事の量が増え、睡眠の質も上がったという。なんと介護度が下がる人まで出てきた。心のトキメキは体にもいい影響を及ぼした。そして高齢者の変化はさらに広がっていく。職員や家族も一緒に楽しみ笑顔が増え、それは他の施設にも広がり最高齢98歳のべ1000人が参加することとなった。

この活動を広めたいという人も増え、老施協の研修会で紹介することにもなる。また地元紙や放送局だけでなく、NHKおはよう日本でも特集が組まれるなど大きな注目を集めていった。

慶応義塾大学医学部の伊藤裕教授は「サポーターになることで新たなつながりができ誰かとつながる幸福感が高齢者を元気にしているのでは」と語る。



施設入居者を対象としたアンケートでは「周りの人も楽しい気持ちでいるか?」の問いに参加者の100%が当てはまると回答。

コロナ禍で「分断」や「孤立」が社会問題になる中「つながり」と「幸せな物語」があふれていた。これは地域に根差すサッカークラブだから実現したことで、そのパワーの大きさに驚くと同時に可能性は無限大だと感じている。今後は行政や研究機関との連携も強化し活動を進化させていく予定だ。